

2022年12月期 第117期 第2四半期 業績概要

2022年8月8日
日東精工株式会社
(証券コード 東証プライム:5957)



2022年3月
健康経営銘柄
2年連続選定

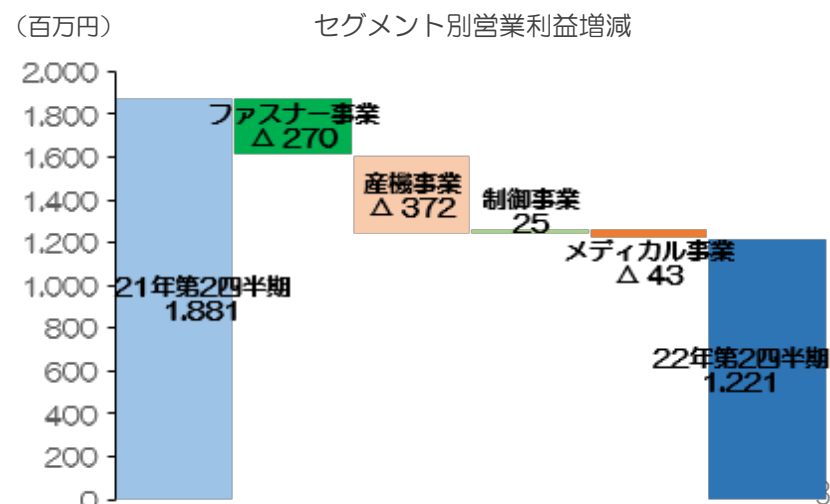
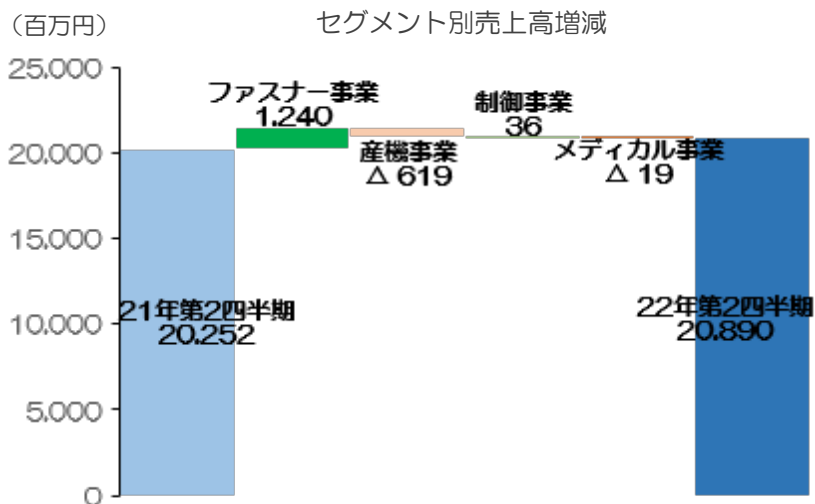
2022年3月
なでしこ銘柄
初選定

単位：百万円／％	21年12月期 第2四半期		22年12月期 第2四半期		前年同期比	
	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率
売上高	20,252	100.0	20,890	100.0	637	3.1
売上総利益	5,275	26.0	4,953	23.7	△321	△6.1
販売管理費	3,393	16.8	3,732	17.9	338	10.0
営業利益	1,881	9.3	1,221	5.8	△660	△35.1
経常利益	2,010	9.9	1,459	7.0	△550	△27.4
税金等調整前当期純利益	2,131	10.5	1,449	6.9	△682	△32.0
親会社株主に帰属する当期純利益	1,231	6.1	833	4.0	△398	△32.4
一株当たり当期純利益（円）	33.41		22.56			

- 主要販売先である自動車関連業界における生産調整の影響を受けたものの、本年4月より子会社化したケーエム精工、ピニングが貢献し、前年同期比増収。
- 原材料価格や物流コストの高騰、部品不足などの影響により、前年同期比減益。
- 海外は、一部で中国におけるロックダウンの影響を受けたものの、東南アジアを中心に生産が回復。円安の効果もあり、前年同期比増収に寄与。

セグメント別売上高・営業利益（連結）

単位：百万円／％		21年12月期 第2四半期	22年12月期 第2四半期	前年同期比	
				増減額	増減率
ファスナー事業	売上高	13,985	15,226	1,240	8.9
	営業利益	894	624	△270	△30.2
	利益率	6.4	4.1		
産機事業	売上高	3,690	3,070	△619	△16.8
	営業利益	944	571	△372	△39.5
	利益率	25.6	18.6		
制御事業	売上高	2,552	2,588	36	1.4
	営業利益	47	73	25	54.0
	利益率	1.9	2.9		
メディカル事業	売上高	23	4	△19	△80.5
	営業利益	△4	△47	△43	—
	利益率	△19.9	△1,038.6		



単位：百万円/%	21年 第2四半期	22年 第2四半期	前年同期比	
	金額	金額	金額	増減率
売上高	13,985	15,226	1,240	8.9
自動車	5,366	5,368	2	0.0
住宅・建築	2,278	3,055	776	34.1
電機・電子部品	2,611	2,775	164	6.3
雑貨	1,198	1,112	△85	△7.2
IT・情報機器	653	755	101	15.5
精密機器	515	552	37	7.2
医療	143	166	22	16.0
エネルギー関連	86	70	△16	△18.8
その他	1,135	1,373	238	21.0
営業利益	894	624	△270	△30.2

- 本年4月より「ケーエム精工(株)」「(株)ピンング」が当社グループに加わった効果あり、売上高は前年同期比堅調に推移。
- 海外ではIT・情報機器関連のねじ製品が総じて好調に推移。

◆自動車

- EV関連ではAKROSE製品やギア部品などの需要が好調に推移したものの、半導体等の部材不足による生産調整の影響が大きく前年同期比横ばい。

◆住宅・建築

- 住宅設備向けねじ製品の需要は引き続き好調に推移し前年同期比大幅増。

◆電機・電子部品

- 家電をはじめとするねじ製品の需要は引き続き堅調に推移。

◆雑貨

- ゲーム機器向けねじ製品は半導体不足による減産計画などの影響もあり低調に推移。

◆IT・情報機器

- 5G通信関連の動きが活況となり関連部品の需要が好調に推移。

単位：百万円／%	21年 第2四半期	22年 第2四半期	前年同期比	
	金額	金額	金額	増減率
売上高	3,690	3,070	△619	△16.8
自動車	1,922	1,954	32	1.7
電機・電子部品	630	209	△421	△66.8
エネルギー関連	511	165	△345	△67.6
IT・情報機器	85	98	12	15.1
遊技機	23	55	32	141.0
住宅・建築	55	47	△8	△15.1
雑貨	12	23	11	95.2
その他	452	519	67	15.0
営業利益	944	571	△372	△39.5

- 材料の高騰および入手困難など背景もあり、売上は前年同期比△16.8%となる。
- 海外では、国際見本市（ドイツ）初出展なども実施し、拡販に向けた施策を展開し、今後の伸びに期待。

◆自動車

- EV、ECU関連など製造設備の引き合いも多く需要は横ばいで推移。

◆電機・電子部品

- 昨年より活況な半導体設備の需要であるが、主要ユーザの今期需要は昨年の投資により限定的となった。この結果を受け前年同期比大幅減。

◆エネルギー関連

- 昨年ของガスメータ関連特需の反動を受け、前年同期比大幅減。

◆IT・情報機器

- 通信基地関連などの需要で堅調に推移。

◆遊技機

- 製造設備の更新など一定の需要により前年同期比大幅増となる。

単位：百万円/%	21年 第2四半期	22年 第2四半期	前年同期比	
	金額	金額	金額	増減率
売上高	2,552	2,588	36	1.4
化学・薬品	613	592	△20	△3.3
エネルギー関連	562	443	△119	△21.2
住宅・建築	265	288	23	8.8
自動車	150	190	39	26.1
電機・電子部品	145	151	5	3.7
造船	121	138	17	14.2
食品	52	58	6	12.5
その他	644	728	83	13.0
営業利益	47	73	25	54.0

・エネルギー関連では分析器等の売上高が伸びを欠いたものの、その他分野では、流量計や地盤調査機などで売上増に寄与。結果、前年同期比で売上高は横ばい。

◆化学・薬品

・元素計、水分計など、分析装置の需要は横ばい。

◆エネルギー関連

・新製品「NSX5000Vシリーズ」や輸出向けの引き合いはあるものの、前年同期比△21.2%と低調に推移。

◆住宅・建築

・ジオカルテの需要は引き続き堅調。

◆自動車

・ミストル、キズミルなどの需要も底堅く堅調。

◆造船

・カーボンニュートラルに伴う燃費転換により質量流量計が堅調。

単位：百万円／％	21年 第2四半期	22年 第2四半期	前年同期比	
	金額	金額	金額	増減率
売上高	23	4	△19	△80.5
医療	23	4	△19	△80.5
その他	－	－	－	－
営業利益	△4	△47	△43	－

◆医療

- 「医療用生体内溶解性高純度マグネシウム」は、治験に向けた省令等に基づくシステムの構築、製造体制の構築など、早期の製品化に向けた取り組みを推進中。

2022年12月期 第2四半期 (連結)貸借対照表

単位：百万円/%	21年12月期		22年12月期 第2四半期		前年同期比	
	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率
資産の部						
流動資産合計	32,646	64.1	33,368	63.1	722	2.2
現金及び預金	11,415	22.4	9,612	18.2	△1,802	△15.8
受取手形・電子記録債権/売掛金	12,084	23.7	12,813	24.2	729	6.0
棚卸資産	7,926	15.6	9,921	18.8	1,995	25.2
固定資産合計	18,277	35.9	19,486	36.9	1,208	6.6
有形固定資産	13,092	25.7	14,212	26.9	1,120	8.6
無形固定資産	1,281	2.5	1,194	2.3	△86	△6.8
投資その他の資産	3,904	7.7	4,078	7.7	174	4.5
資産合計	50,924	100.0	52,854	100.0	1,930	3.8
負債の部						
流動負債合計	13,675	26.9	14,303	27.1	628	4.6
支払手形・電子記録債務/買掛金	8,069	15.8	8,761	16.6	691	8.6
短期借入金（一年以内返済の 長期借入・社債含む）	2,610	5.1	2,597	4.9	△13	△0.5
固定負債合計	4,546	8.9	4,461	8.4	△84	△1.9
負債合計	18,221	35.8	18,765	35.5	543	3.0
純資産の部						
資本金	3,522	6.9	3,522	6.7	—	—
資本・利益剰余金	26,993	53.0	27,510	52.1	517	1.9
自己株式	△1,254	△2.5	△1,245	△2.4	9	0.7
純資産合計	32,702	64.2	34,089	64.5	1,387	4.2

単位：百万円	21年12月期 第2四半期	22年12月期 第2四半期		
	金額	金額	増減額	増減率
営業活動によるCF ※①	1,893	300	△1,593	△84.1
投資活動によるCF ※②	△337	△1,517	△1,179	—
（フリーCF） ※①+②	1,555	△1,217	△2,773	—
財務活動によるCF	△164	△661	△496	—
現金及び現金同等物の増減額	1,508	△1,659	△3,167	—
現金及び現金同等物の期首残高	8,299	10,435	2,136	25.7
現金及び現金同等物の期末残高	9,808	8,776	△1,031	△10.5

2. 2022年12月期 第117期業績予想

本資料に掲載されている業績見通し等に関する将来の予測は、当社が現時点で入手可能な情報と、合理的であると判断する一定の前提に基づき作成したものであり、実際の業績等は、今後様々な要因によりこの見通しと異なる場合があります。

単位：百万円／％	21年12月期		22年12月期（予想）		前年同期比	
	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率
売上高	40,518	100.0	42,500	100.0	1,981	4.9
営業利益	3,249	8.0	3,400	8.0	150	4.6
経常利益	3,487	8.6	3,500	8.2	12	0.3
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,200	5.4	2,200	5.2	0	0.0
一株当たり当期純利益（円）	59.63		59.54			

- 半導体不足や新型コロナウイルスの感染再拡大の影響は残るものの、自動車関連業界（EVやECU）を中心に需要の回復もあり増収の見込み。また、4月に子会社化したケーエム精工がファスナー事業の売上・利益の拡大に貢献。
- 軽量化や資源の効率化に貢献するねじ製品の需要が好調に推移する見込み。
- ねじ締め機関連では、自動車関連のCASEに関わる設備や住宅業界からの好調な需要を背景に、下期は売上増加を見込む。
- 流量計関連は造船業界の需要回復を受け、また検査機関連は省人化や自動化のニーズにより、堅調に推移する見込み。
- メディカル事業は、販社との連携強化に努めるとともに、医療現場のニーズや市場を見据えた新製品の開発を進める。
- 5月に出展した国際見本市後のフォローによる欧州新規顧客開拓の効果に期待。